ふるさと歴史アラカルト

干支にちなんだ作品

今年は酉年ですが、干支の中でも鶏（鳥）は絵の題材として用いられることが大変多く、岩国徴古館にも多く収蔵されています。今回はその中から代表的な1点を紹介します。

この作品は伊藤若冲（1716～1800）の鶏の絵に対し、熊谷直好（1782～1862）が賛[※1]「打羽ぶき、既に鳴く哉、庭鳥の、こゑはまづ聞、ここち社すれ」を添えたものです。

伊藤若冲は正徳6（1716）年、京都の商人の家に生まれました。40歳で家業を弟に譲り、狩野派、宋元画[※2]を学んだ後、動植物などの写生を描くようになったといわれています。作風は幅広く、緻密に描かれた着色の花鳥画、特に鶏を得意としていました。その一方で水墨画も多く描いており、水墨画の描き方は着色のものとは異なる独特な描き方で、この絵も鶏の特徴を捉えながらも、顔つきなどにユニークさがあります。

熊谷直好は、天明2（1782）年、岩国藩士の家に生まれ、幼い頃から歌の才能があったと伝えられています。寛政9（1797）年、歌人として当時国内で有名だった香川景樹に歌を送って添削を願ったところ、その才能を嘆賞され、景樹の門人となりました。後に直好は桂園十哲[※3]の1人に数えられるほどになっています。

2人の年齢から推測すると、この作品は直好が景樹に弟子入りした頃に書かれたものと思われます。当時すでに絵師としてその地位を確立していた若冲の鶏の絵に対し、まだ若い直好が添えた賛は、鶏の躍動感と声が聞こえてきそうな若冲の絵をよく表現しているといえます。

絵師と歌人、年の離れた2つの才能が見事に融合した芸術作品といえるのではないでしょうか。

※1　画に添えられた詩のこと

※2　中国の宋、元の時代の絵画の模写をしたと伝えられる

※3　桂園は香川景樹の号で、景樹の門人の中でも最も優れた10人のこと

◀『鶏図賛』
伊藤若冲筆、熊谷直好賛

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7－19　☎㊶0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市　人口・世帯

人口	138,465人	【前月比 － 60人】	男性　65,683人	女性　72,782人
世帯	66,261世帯	【前月比 － 6世帯】	※外国人人口を含む（平成28年12月１日現在）	

交通事故発生件数　11月分事故件数 48件（469件）　死者数 0 人（6 人）　傷者数 59人（558人）
※高速道路発生分を除く　※（　）内は平成28年累計

広報テレホン　休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス　☎㉓1234

目の不自由な人へ　「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ　☎㉙5016　FAX㉑3337